

第2回・第3回検討会の振り返り

- ・ 第2回検討会の振り返り
- ・ 第3回検討会の振り返り
- ・ タイムライン完成までの流れ

**第2回検討会の振り返り
(2019年11月27日)**

【第2回検討会】振り返り 第2回検討会のワーキング振り返り

- 優先度の高い重点行動項目について、実施手順や内容がわかるように、**具体化・細分化**を行いました。
- 重点行動項目を実施する上での、課題・行動開始のきっかけを記入しました。

Step 1

重点行動項目の具体化・細分化

重点行動項目 (行動種別) (ピンク付箋)	行動項目 (黄色付箋)	実施する上での課題 (黄色付箋)
情報収集	被災情報の収集	関係機関からの迅速な情報提供
手順① (水色付箋)	手順② (水色付箋)	手順③ (水色付箋)
水位情報や河川カメラ映像の確認	被災者からの被災情報の受信	関係機関への伝達

タイムラインレベル TL-1~5
行動開始のきっかけ 水位情報・河川カメラ映像、関係機関からの被災情報

「重点行動項目」について、実施手順や内容がわかるように、**具体化・細分化**。

項目を行う上での課題出しも行いました。



Step 3

全体発表



グループ内で挙げられた重点行動項目について、行動を実施する上での課題、**他機関と必要な連携**を発表。

Step 2

グループ内発表・意見交換

グループ名: 広報・連絡対応	TLレベル:
<p>01 広報・連絡対応</p> <p>02 被災者への対応</p> <p>03 関係機関との連携</p> <p>04 関係機関からの情報提供</p> <p>05 関係機関への伝達</p> <p>06 関係機関との連携</p> <p>07 関係機関からの情報提供</p> <p>08 関係機関への伝達</p> <p>09 関係機関との連携</p> <p>10 関係機関からの情報提供</p> <p>11 関係機関への伝達</p>	<p>01 広報・連絡対応</p> <p>02 被災者への対応</p> <p>03 関係機関との連携</p> <p>04 関係機関からの情報提供</p> <p>05 関係機関への伝達</p> <p>06 関係機関との連携</p> <p>07 関係機関からの情報提供</p> <p>08 関係機関への伝達</p> <p>09 関係機関との連携</p> <p>10 関係機関からの情報提供</p> <p>11 関係機関への伝達</p>



- ① グループ内で、機関ごとに重点行動項目対応シートの内容を発表。
- ② その項目を実施する上で**関係するグループにチェック(✓)**。

【第2回検討会】 振り返り

重点行動項目を実施する上での課題、他機関と必要な連携発表

- グループ内で挙げられた重点行動項目について、行動を実施する上での課題、他機関と必要な連携を発表。

グループ	主な連携先	課題、他機関と必要な連携
① 防災情報	①防災情報 ②報道	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 気象台、国河川、県河川 → 情報提供。関係機関に情報周知。 ➢ 殿ダム → 市や住民、関係機関への緊急放流の的確な周知。 ➢ 道路管理一課 → 外水・内水被害開始後の道路パトロールのタイミング。作業員の安全を確保しながらの発災時の行動。
②	報道	➢ 情報がないと動けない 。河川事務所・行政からスムーズに情報が入れば、事の重要さを知ることができ、動くことができる。
	避難対応	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 鳥取市 → 住民への周知が一番の懸念。報道の力を借りたい。 ➢ 鳥取県 → 広域的な避難のため、他市への避難について調整。
③ 大規模避難・救助	①防災情報	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 法律上の責務として、人命救助が基本である。 ➢ 交通規制での人員確保、住民避難時の関係機関との連携。 ➢ 救出活動の分担・調整。
④ 社会基盤	①防災情報 ②報道	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 計画運休の詳細な決定と周知。（線区、運休時刻等） ➢ 運転再開見込みの周知方法（マスコミによる情報伝達）。 ➢ 沿線に並行する国道・県道・沿道が通行可能か確認。 ➢ 避難指示発令の間、晴天時には社員に点検をさせてよいのか。

【研修会】 振り返り

総評：鳥取大学大学院工学研究科 三輪浩教授

総評：鳥取大学大学院工学研究科 三輪浩教授

- 折り返し地点。これからは**横のつながり**。
今日出てきた項目をいつ、誰とやるか次回以降決めて行く。
- ①行動に至った情報を含めて共有、分析してほしい。行動する理由をお互いの機関で話すことでスムーズになる。
- ②情報の周知。**受ける側は住民**。発信することが多い皆さんは受け取る側のことも考えてほしい。**受け取る立場になって、発信。情報をスムーズに受け取ってもらい、行動につなげることがTLの最終目標・効果。**



**第3回検討会の振り返り
(2020年2月26日)**

【第3回検討会】振り返り

第3回検討会のワーキング振り返り

- 第2回検討会ワーキングで具体化・細分化された重点行動項目を行う際の課題について、対象機関と意見交換をし、課題解決・調整を行いました。

Step 1

タイムライン（素案）の確認

- **自機関の実施する行動項目**（記号◎、○、発、収、受）及び、具体化・細分化された防災行動項目を確認。



Step 2

各機関との連携・調整事項の抽出

- 第2回検討会ワークで上がった課題について、「**課題・調整シート**」を作成。



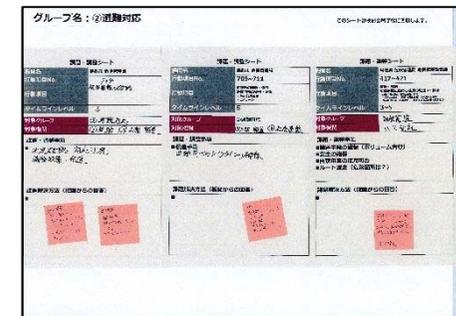
- 全体意見交換を行う課題をグループ内で3つ選定。

Step 3

各機関との課題の整理・共有



- 全体で各グループの課題解決シートを発表
- 課題・調整事項について**他機関から得られた回答、解決策**については、**課題・調整事項シート**の回答欄に記入。



【第3回検討会】 振り返り 課題解決・調整のための意見交換結果①

- タイムラインの重点防災行動項目を実施する上での、課題・調整事項について意見交換を行いました。

グループ名	発表機関	主な発表内容（発表順）	
④ 社会基盤 (交通)	JR西日本 (代表)	課題①	継続したL字放送での運休の周知。
		回答	詳細で正確な情報をFAX・メール等で教えてくれれば可能。再開が決まったら、情報を伝えてほしい。(NHK)
		課題②	点検のための通れる道路が分からない。
		回答	安全確認のためのパトロールをし、何かあればその都度対応する。点検がすべて終わってからの周知になる。(道路管理第一課)
④ 社会基盤 (ライフライン)	中国電力 鳥取電力所	課題	現場へ行くための正確でタイムリーな情報を知りたい。
		回答①	HPや電話で直接回答が可能。(鳥取地方気象台)
	鳥取ガス	回答②	ツイッター、プッシュ型配信、「川の防災情報」、トリピーメールで情報を発信している。(河川管理課)
		課題	住民避難情報の確認。
② 避難対応	鳥取市 危機管理課	回答	避難所の開設は被害がない場所で行う。ライフラインの情報はこちらも必要なので、適宜連絡を取りたい。(グループ②代表：鳥取市)
		課題①	災害が発生している状況で現場がどうなっているか、人的被害が発生した際の情報発信を知りたい。
		回答①	規模が小さいうちは消防でも報道対応が可能。大規模であれば、市が行った方がよい。(消防局)
		回答②	連絡を密にしながら共有していく。(鳥取警察署)
	鳥取県 危機管理局	課題②	避難所のライフライン(電気・ガス等)の確保。
		回答	避難所開設の情報を教えてくれれば、優先的に動くことができる。(中国電力鳥取電力所)
		課題	広域避難の際の移送手段。
		回答	バス協会が取りまとめて、災害時の協力を行う。(日本交通)

【第3回検討会】 振り返り 課題解決・調整のための意見交換結果②

グループ名	発表機関	主な発表内容（発表順）	
② 広報・報道	山陰中央 テレビジョン (代表)	課題	取材先の状況が不明。
		回答①	川の水位はCCTVで見れる。（河川管理課）
		回答②	「通れるマップ」のようなものがあればよいとは思っている。（道路管理第一課）
		課題②	住民への避難情報発表のための情報はFAXでいいのか。
		回答①	自治体で発表方法は様々である。（鳥取市）
		回答②	定時報告のためリアルタイムではない。 県の情報はその時の最新情報なので、タイムラグが生まれる。（鳥取県）
		課題③	もう少し早く交通情報がほしい。路線バスの状況が不明。
		回答	報道機関に発表のご協力をお願いしたい。（日ノ丸自動車）
③ 大規模避難 ・救助	鳥取県 警察本部 (代表)	課題①	停電時のフリーダイヤルは、専用の回線があるといい。
		回答	停電アプリを活用してほしい。大規模停電の際には、人員不足で問い合わせの電話に対応できない場合もある。（中国電力鳥取電力所）
		課題②	TLレベル0の時、点検・巡視の際に発見した問題点等を事前に共有してほしい。円滑な再確認につながる。
		回答	異常があった際の報告は、他機関TLの上で今後行っていく必要があると思われる。（河川管理課）
		課題③	何世帯中の何世帯・何名が避難しているかを教えてほしい。防犯上必要な情報。
		回答	必ずしも住民が対象の避難所に避難するとは限らないため、何世帯中何世帯というのは難しい。（鳥取市）
① 防災情報	鳥取河川国 道事務所 河川管理課	課題	一般の方への伝達の方法。
		回答①	緊迫感を伝えることが必要。（グループ①代表：山陰中央）
		回答②	直接電話をかけてくれれば、実際の深刻さが伝わり、こちら側もそれを踏まえて報道できる。（NHK）

【第3回検討会】 振り返り 総評：鳥取大学大学院工学研究科 三輪浩教授

総評：鳥取大学大学院工学研究科 三輪浩教授

- 我々を含めた**住民がいかに的確な情報をキャッチできるか**が、タイムラインにおいて大事。そしてタイムライン作成が少しでもその役に立てばいい。今回は住民がどのように情報をキャッチするかという議論が、自然とグループワークの中で出てきていると感じた。
- **タイムラインは、住民の情報の受け取り方を向上させていく取り組みであることを共通認識**として全員が持っていれば、今後完成形をどう活用するのかにつながっていく。



**タイムライン完成まで流れ
(第2回検討会 第4回検討会)**

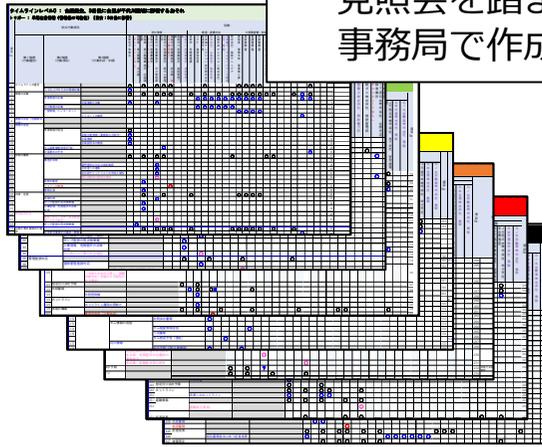
タイムライン完成までの流れ

第4回検討会ワーキング【本検討会】

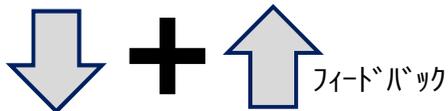
- 千代川タイムライン読み合わせ。「顔の見える関係」を実践し、一体感を高め共通理解を確認。

タイムライン（案）

TL-0~TL-5



➤ 第1回~第3回検討会ワーキング・意見照会を踏まえ、事務局で作成



各機関への意見照会

全体読み合わせ（イメージ）



完成式までに、
タイムライン（令和元年度版）作成